



令和8年度 国立市立国立第三小学校 学校経営方針

ver.令和8年4月1日

学校教育目標

「思いやりのある子」

○人、環境、地域を大切にする気持ちを表す行動力

「考え実行する子」

○蓄えた知識や技能を活用して諸問題を解決する力

「健康でたくましい子」

○心身の健康と自他の安全を目指す実践力



学校づくりのキーワード

ほめて伸ばす

できない「負の部分」を正すよりも、できている「自慢の部分」やできそうな「努力の部分」を伸ばす。そのことで、「負の部分」が見えなくなったり改善されたりしてくる。できる→ほめる→できる…の連鎖により、学習や生活に最も必要な自己肯定感を高める。

プラスの連鎖でプラスを生み出す「ほめて伸ばす」を、三小に関わる皆でやりきる。

学校づくりのキーワード

地域との連携

三小の誕生をしたときから現在までを支えていただいている
・三小地区育成会 ・旭通り商店会
の方々を中心とした協力体制は本校の教育資産である。
R8をコミュニティ・スクール元年と捉え、
・地域の教材化 や ・地域人材の活用
を積極的に取り入れて、コミュニティの形成や増強に力を入れる。
地域をフィールドにする質の高い学びには、保護者や地域の協力が不可欠。だからこそ「win-win」の関係をCSで創造する!!

学校づくりのキーワード

チーム三小

プラスの連鎖をつくることのできる学校や教員には、子供も保護者も信頼を寄せる。そして、
・うまくいったことを共に喜び関係に
・困り事を相談したり共に解決したりする関係になる。
教職員、保護者、何十年も思いを寄せている地域の方による「チーム三小」が固まってくると、やりたいことに時間をかけられる「働き方改革」に繋がっていく。

「win-win」を生み出すコミュニティ・スクール元年

○地域との関わりの推進

- ・地域の施設や人材を積極的に活用して、関係をつくっていきます。
- ・地域行事への参加や見学をいっそう啓発していきます。
- ・夏休みに開催予定の夏祭り（盆踊り）への参加を呼び掛けて地域を盛り上げます。

○保護者との連携強化

- ・ゲストやボランティアとして、積極的に参加していただくようにします。
- ・活動の協働を通して、チーム力を高めていきます。

○今ある関わり強化、推進

- ・頼りにしている「A.S.S.」での学習を、さらに、進めていきます。
- ・東学童、ほうかごキッズ、サッカーアカデミーや陸上教室など、子供の放課後を支えてくださる方との協働を、さらに進めていきます。

「誰もが居心地のよい学校」づくり

○その子らしくいられる場の構築

- ・別室を必要とする子に応じた指導や支援を行います。
- ・配慮が必要な子を中心において学習や活動を展開します。

○互いを尊重し合う人権教育の推進

- ・人権課題を知る機会を各学年に位置付けて実施します。
- ・互いのよさを認め合う関係を、共に学びながら築きます。

○活動の交流、指導の共有

- ・ひまわり学級と通常学級をつなぐ交流を行っていきます。
- ・「はばたき」教室で指導方法を各学級に取り入れていきます。
- ・SSと担任による個の支援の協働を、さらに、推進します。

働き方改革の推進

○教員のやりたいことに費やす時間の確保

- ・子供や保護者に寄り添う「チーム」でトラブルを回避します。
- ・高学年の教科担任制でつくった空き時間を有効活用します。
- ・中学年で教科担当制を実施して、指導力と空き時間の確保！
- ・低学年の学年内授業交換を、夏休み明けから行っています。
- ・行事の内容の見直しと、行事の準備も効率よく行います。
- ・会議の精選と校務のDX化で、時間を生み出します。
- ・「あゆみ」の文章での評価を、年度末にします。

○教員自身の意識改革

- ・在校時間の超過を、1日2h以内にします。（月45h以内）

1人1台端末の授業での日常化

○授業での日常化の推進

- ・思考を表出するコミュニケーションツールとして
- ・外からの情報と仲間の考えを得るツールとして
- ・ドリル的な活用で習熟を高めるツールとして
- ・自ら選ぶ資料として。ノートや鉛筆の代用として。
- ・オンラインでの参加もフレキシブルに

○家庭学習等での活用の推進

- ・「クラスルーム」での写真や動画での学級紹介
- ・日常や長期休業中の宿題の一部として

学び方の「基礎・基本」の定着

○「学びたい」と思える授業づくりの推進

- ・「価値ある問い」を取り入れて学習意欲を高める。
- ・伝達型やドリル型から探究的な学習をメインに！
- ・教科担任制（5・6年生）、教科担当制（3・4年生）教科入替制（1・2年生）、授業の質の向上を！

○「わけをそえて」を合言葉にした授業づくりの推進

- ・理由を伝え合うことから生まれる対話をつくる。

○地域人材や施設等を活用した学びの推進

- ・「地域の資産」の活用で学びの質の向上を！

自己肯定感の向上と集団づくり

○互いを尊重し合う人権教育の推進

- ・人権的な課題を各学年に応じて知る、触れる。
- ・「あいさつが自慢の学校」をみんなで目指す。
- ・「お昼の会」で個々のがんばりを皆でたたえ合う。

○話合いができる学級づくりの継続

- ・学級活動（話合い）を全てのクラスで上達を！

○共に高め合う体力向上の推進

- ・長縄、短縄、ジョギングを個と集団で高める。
- ・体育で体力アップ、学級の遊びでもアップ

「安心・安全」の場である学校

○未然防止、早期発見を基本とした「いじめ対策」

- ・Q-Uと構成的グループエンカウンターを活用した未然防止
- ・「いじめ」の兆候の早期発見
- ・「いじめ対策会議」による組織的な早期対応

○計画的な「防災訓練」「交通安全」「生活安全」

- ・地域との協働での防災訓練の開催（9月）
子供の訓練とともに、保護者も避難所運営に参加を
- ・学年に応じた交通安全訓練の実施
- ・メール配信による生活安全に関わる情報共有